



W3C 組織概要

<http://www.w3.org/Consortium>

W3C は、Web 技術の標準化と推進を目的として、Web の発明者である Tim Berners-Lee によって 1994 年 10 月に設立された会員制の国際的な産学官共同コンソーシアムです。2004 年 10 月で設立 10 周年を迎えました。アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所 (MIT CSAIL)、フランスに本部を置く欧州情報処理数学研究コンソーシアム (ERCIM)、および日本の慶應義塾大学の三者がホスト組織として共同運営を行っています。技術仕様の勧告 (Recommendation) としての策定のほか、Web に関する情報の提供、技術開発の促進、新技術のプロトタイプ実装などに取り組んでおり、現在までに 90 本を超える勧告が策定、公開されています。

国際標準化

<http://www.w3.org/Consortium/activities>

W3C では、ワーキンググループ (WG) が具体的な技術仕様やガイドラインの標準化を行います。WG は、主に W3C 会員組織から参加する技術者と W3C の技術スタッフから構成されます。WG が作成した技術仕様やガイドラインは、会員組織と一般からのレビューに基づいて改善され、W3C の技術総括責任者である Tim Berners-Lee の決定により、W3C 勧告となります。それぞれの WG は次の 4 つのドメインのいずれかに所属し、様々なトピックを取り扱っています。

- **Architecture** — Web を支える基盤技術の改善と自動処理の推進
XML / XML Schema / XML Namespaces / xml:id / Infoset / XML Processing Model / XSL / XSLT / XPath / XQuery / XML Base / XLink / XPointer / XInclude / XML Interchange / Binary XML / SOAP / WSDL / WS-Choreography / WS-Addressing / XML Schema Databinding / Semantic Web Services / DOM / URI / IRI / Character Model / 国際化
- **Interaction** — Web 上の情報に対する新しいアクセス手法の探究
XHTML / XForms / XML Events / HTML / CSS / WebCGM / PNG / SVG / SMIL / Timed Text / MathML / VoiceXML / SRGS / SSML / SISR / CCXML / Multimodal Interaction / EMMA / InkML / Rich Web Client / CDF / WICD / Device Independence (CC/PP) / Device Description / Mobile Web Initiative (MWI)
- **Technology and Society** — Web 上の政策的課題に取り組む支援技術の提供
Patent Policy / Semantic Web / RDF / Web Ontology (OWL) / SPARQL / Rule Interchange Format / Health Care & Life Sciences / Privacy (P3P) / PICS / Canonical XML / XML Signature / XML Encryption / XML Key Management
- **Web Accessibility Initiative (WAI)** — 障害を持つ人を含むすべての人が使いやすい Web の実現
W3C 技術の検証 (Protocols and Formats) / ガイドライン策定 (WCAG / UAAG / ATAG) / 評価・修正ツールの評価と開発 (Evaluation and Repair Tools) / 普及・啓蒙活動

またドメイン横断的な活動として、W3C 技術の品質保証を確保する Quality Assurance (QA) や、萌芽的な技術を対象に迅速な意見集約を目的とする Incubator Group (XG) があります。

W3C へのご参加

<http://www.w3.org/Consortium/join>

W3C 会員としてご参加頂くと、次のようなメリットがあります。

- 技術仕様の策定や新たな技術提案が行えるワーキンググループやワークショップなどへの参加
- 会員専用の Web ページやメーリングリストを通じた、仕様案などの最新情報の入手
- 研究員の派遣を含む人的、技術的な交流 (W3C Fellow プログラム)
- W3C の活動に対する戦略的な方向付け
- W3C を通じた広報活動だけでなく、W3C 会員同士の連携を活用した、様々なビジネス上のメリット

現在 400 程の会員組織が世界各国から参加しています。この中にはコンピュータ産業やインターネット産業、情報産業をリードする主要な企業が多数含まれるだけでなく、世界有数の研究機関や大学、先進各国の政府関係機関、NPO やユーザ団体など、多様な組織で構成されています。日本からはこのうち約 1 割近くに相当する 30 を超える組織が参加しています。日本の最先端技術を国際標準化するためにも、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

W3C 慶應

<http://www.w3.org/Consortium/contact>

W3C 慶應は東アジア地区担当の W3C ホストとして、1996 年 9 月に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (SFC) 併設の SFC 研究所に設置されました。現在 12 名がスタッフとして活動しており、技術面では特に、Semantic Web やその基盤となる RDF や OWL、Web ページの記述に用いられる XHTML / HTML や XForms、XML に基づく複数のマークアップ言語の組み合わせを可能にする CDF、携帯機器からの簡便な Web アクセスを実現する MWI、電話などを通じた音声に基づく Web アクセスを実現する Voice Browser、Web の国際化、W3C 技術の品質を保証する QA などに取り組んでいます。また W3C 会員および一般向けに、日本語による情報提供や Web 関連技術の普及・広報活動も行っています。

入会希望・報道取材・ご質問などがございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。

慶應義塾大学 SFC 研究所 W3C
住所：〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤 5322
TEL：(0466) 49-1170 FAX：(0466) 49-1171
E-mail：keio-contact@w3.org URI：http://www.w3.org/